

むかし おぼ

昔覚ゆる甲府城展

— 城と城下町 — 甲府城跡保存活用等調査検討委員会の成果

期 間 平成21年4月10日(金)から4月19日(日)
開館時間 午前9時～午後5時(但し、入場は4時30分まで)
(10～11日は午後8時まで開館)

会 場 舞鶴城公園 稲荷櫓(入場無料)

お問い合わせ先 山梨県埋蔵文化財センター
TEL 055-266-3016

記念講演会
『絵図から見た甲府城のすがた—京大絵図を中心に—』
4月12日(日)午前10時30分から正午12時
場 所: 恩賜林記念館2階大講堂(入場無料)
講 師: 山梨県立博物館 平山 優

山梨県教育委員会では、甲府城跡保存活用等調査検討委員会を平成17年度より発足させ、城郭絵図をはじめとする文献や出土瓦などの調査から、かつて存在していた建物の検討を行ってまいりました。

今回の展示は、四カ年にわたる調査の結果、明らかとなった研究成果について公開するものです。1590年代(文禄・慶長年間)の築城以降、長い歴史を育んできた甲府城と城下町ですが、その築城期の正確な歴史や姿を知る資料があまり発見されていないのが現状です。小さな成果ですが、私たちの甲府城を身近に感じ、そしてかつての雄姿をこれらの資料から思い巡らせていただく機会となることを願っております。

みどころ

新発見絵図パネル
(京大所蔵資料)

城内建物分布パネル
(絵図から探る)

ハンズオンコーナー
(出土品に触れてみよう)

特設展示
(石工・鍛冶道具)

甲府城並近辺絵図(京大工学部工学研究科建築学専攻 所蔵)

甲府城年表

- ◆ 一五八二(天正一〇) 織田信長・徳川家康により武田氏滅亡
- ◆ 一五九〇(天正一八) 甲斐は豊臣領となり、羽柴秀勝(秀吉の甥)が治める。
- ◆ 一五九一(天正一九) 加藤光泰が治める。
- ◆ 一五九三(文禄二) 浅野長政・幸長が治める。このころ築城開始。
- ◆ (慶長五)「関ヶ原の戦い」
- ◆ このころ甲府城が完成
- ◆ 一六〇一(慶長六) 甲斐国は徳川領となり、再度平岩親吉が治める。
- ◆ 一六〇三(慶長八)「江戸幕府が開かれる」
- ◆ 徳川義直(家康九男)が治める。
- ◆ 一六〇七(慶長一二) 城番制(武川十二騎)となる。
- ◆ 一六一八(元和四) 徳川忠長(二代將軍秀忠二男)が治める。
- ◆ 一六三二(寛永九) 再び城番制となる。
- ◆ 一六六一(寛文元) 徳川綱重(三代將軍家光三男)が治める。
- ◆ 一六六四(寛文四) 城内の大修理がおこなわれる。
- ◆ 一六七八(延宝六) 徳川綱重(綱重嫡男)が治める。
- ◆ 一七〇四(宝永元) 綱重が江戸城に移り六代將軍家宣となる。
- ◆ 一七〇五(宝永二) 柳沢吉保・吉里親子が甲斐国を治める。
- ◆ 一七〇六(宝永三) 城内の修復がおこなわれる。
- ◆ 一七二四(享保九) 柳沢氏大和郡山へ移り、勤番支配となる。
- ◆ 一七二七(享保一二) 甲府城大火
- ◆ 一八六八(慶応四) 明治維新 板垣退助の官軍が甲府城に無血入城。
- ◆ 一八七三(明治六) 廃城
- ◆ 一八七七(明治十)以降 葡萄酒醸造所・甲府停車場・甲府中学など建設
- ◆ 一九六四(昭和三十九) 舞鶴城公園として都市計画決定。
- ◆ 一九六八(昭和四十三) 甲府城跡として県指定史跡となる。
- ◆ 一九九〇(平成二) 平成の整備事業が始まる。
- ◆ 二〇〇四(平成一六) 稲荷櫓復元